

学校施設の耐震化等に関する説明会

- 1 開催日時 平成22年6月21日（月）午後8時00分～午後9時30分
 - 2 開催場所 京丹後市立佐濃小学校 和室
 - 3 出席者 米田教育長、金久政策総括監、吉岡教育次長、三田参事、
中川都市計画・建築住宅課長補佐、糸井教育総務課長、藤村学校教育
課長、味田教育総務課長補佐、三浦教育総務課長主任 計9名
地元出席者 30名
- 報道 毎日新聞
- 4 内容
 - (1) あいさつ（米田教育長）
 - (2) 資料説明 京丹後市立学校施設の耐震化方針（案）
 - (3) 質疑応答
 - 5 要旨
吉岡教育次長、京丹後市立学校施設の耐震化方針（案）説明

質疑応答

(出席者)

学校の建物は何年が賞味期限ですか。コンクリートは50年という話ですが、よく見たら新しい学校ですが22年も過ぎているということです。佐濃小学校は体育館だけは新しいようですが、新しく建てた方が将来のためにいいような気がしますでしょうか。

(参事)

ご質問ありました賞味期限ですね。耐用年数という意味ですが、耐用年数には物理的な耐用年数、経済性社会性としての耐用年数、それと見てくれの意匠的な三つの要素があります。その中、旧大蔵省で定めている法的な耐用年数は、物理的な耐用年数も考慮した年数ですが、鉄筋コンクリート造の学校または体育館については47年と定められています。ただ、現在鉄筋コンクリート造の耐用年数寿命は50年から80年ぐらいと考えられていますが、この耐用年数というのは例えば賞味期限のように50年経過したからそこで終わり、次の日に潰れるというものではございません。建物は大切に維持管理をしてやれば耐用年数は延びていくものです。今後どのようにメンテナンスをするかで耐用年数は変わっていくものです。

(出席者)

佐濃小学校ですが、強度が非常に弱いようですが、小学生がいるわけですから、早く対応しないと危ないです。平成26年、平成27年とか言っていないで、今すぐ何とかしなければなりません。平成26年度の予算がないとあって、平成27年度末ということがあるということです。佐濃小学校はなんとかしなければならぬということには変わらないと思います。統合した場合、小学校はすぐに潰してもらえるのですか。体育館だけ残して置いてもらっても、ほったらかしでは困りますが、そういうことも考えてもらっている

のですか。

(教育長)

その件につきましては、先ほど説明しました Is 値が 0.3 未満と診断された学校施設に佐濃小学校の場合は当てはまります。耐震補強工事ができない、または Is 値が計測不能と診断された場合ですが、「平成 23 年度中に準備を行って、24 年度当初を目途に、耐震性の高い学校に統合する」、または「学校再配置を見据えた改築工事を原則 23 年度中に実施する」、それから「プレハブとかいろんな代替施設を準備する」この三つのうちのどれかに該当するということとなります。この絵を見ながら、京丹後市全体の再配置を作ってからということで、今どれにしますということとは言えませんが計画は持っております。跡地につきましては、佐濃小学校の場合、体育館が非常に丈夫といえますか、そういう結果も出ており、災害対策上の避難場所でもあることから確保は当然考えていかなければならないと思っております。こうした棟をどうするかということですが、地区の方々の意見を聞いて、跡地利用は考えていくという方針であります。今、「これを潰してどうするか」とか、「何に活用するかとか」いう計画については、地域の方のご意見を聞いてから進めていくように考えております。

(参事)

先ほどのご質問で、「この佐濃小学校はコンクリート強度が弱くて、すぐに何とかしなければならない」のではというお話がありました。この資料を見ていただくと、各学校の診断結果がありまして、佐濃小学校については Is 値として 0.12 という数値が出ておりますが、例えば、他の学校の数値も 0.05 という低い数値もあります。この数値が低いからといってこの建物が今すぐ倒壊するというようなことも考えられませんし、早急に避難する必要があるというものではありません。文科省からこの数値が 0.3 未満のものについては、「早急に耐震補強をなさい」という指示があり、改築あるいは補強をするということです。

(出席者)

今の説明ですと、すぐには壊れないというようなことを言っておられますが、ちょっとそれはおかしくないですか。Is 値の低い原因は何ですか。

(参事)

Is 値が低い原因は、コンクリート強度であります。

(出席者)

峰山中学校でしたか、資料を見ますと 0.19 です、体育館については、コンクリート強度はかなりあります。それと同じような比較で、佐濃小学校は大丈夫ですというようなことは具合が悪いですか。

(参事)

今、申し上げましたのは、すぐに避難しなければならないということも、今日、明日に建物が潰れるということは考えにくいということでもあります。

(出席者)

考えにくいじゃなくで、それで大丈夫ですという言い方でないと、佐濃区民は納得できないと思います。もしそれで地震が起こって倒壊した場合は、責任をとっていただけるのですか、市の方が、そういう言い方をされるということは、「大丈夫ですよ」というような

言い方ですが、違いますか。コンクリート強度が低くて、ここまでの数値になっているのではなく、他の要素も含めてなっているはずであり、総合的に判断しての 0.3 以下という数値ですね。

(参事)

そうです、それはもちろんコンクリート強度だけでなく、壁の配置などいろいろな構造的なデータより、この数値は出ています。

(出席者)

構造的、強度的には CT×SD ですが、コンクリート強度については Is 値が悪いので、地震力についてはせん断力に対して、抵抗をコンクリートは持っていますので非常に悪いということが一番の心配の原因ではないのですか。その点が、最初に「Is 値が低い原因は何です」と聞くように、市の方としてその辺の危機感を持っていただかないと、ここに通学、教職員としておられる方については、市からの説明としては非常に変な内容であり、職場として大丈夫かどうか。それと先ほど言っておられた跡地利用としては、将来、学校施設が統廃合した跡地については、この地区の人と相談してというような言い方でしたが、そのようなやり方ではこの地区はとっても困るのです。統合するにあたっては、市の方針があるはずで。大きな市の将来像というのが、どういうのか描いておられると思うのです。久美浜をどういう地域に作っていくかということも、考えておられると思いますが、その中に、佐濃小学校の統合問題に跡地については平行して示していただかないと非常に困ります。佐濃地区としては、「それは後ですよ」ということになれば、当然、計画の変更は出てくるだろうし、「やっぱりこうですよ」ということになれば、佐濃地区としてはどうにもならなくなるのです。

(教育長)

跡地利用につきましては、地域の方々の意見をよく聞いていくというお話を前回からしております。ただ、それだけでは余りにも無責任な感じになるということで、「こんな跡地利用の方法もありますよ」という例も調べて見たり、土地利用をこのようにした場合、「こういうことに使う方法がないか」調べたり、資料を集めたりしております。現に、竹野小学校が本年度から間人小学校へ移ったわけではありますが、その跡地を地域の方が『跡地利用委員会』を作り検討していただいているところであります。最初に言われました、危険な状況の Is 値ですが、学校の方向がきちっと決着がついてからということで、平成 23 年度中にこのように書いているわけであります。すぐに計画を立てて、その後、対応に移していくという意味で書いております。

(補佐)

佐濃小学校は昭和 43 年に建設をする時に、建築基準法により建築確認を申請して、その当時の法律に合う方法で計算を行い設計されております。その後、大きな地震があちこちであり、国の方もその被害の調査を行った結果、それまで使っていた建築基準法の算定式では被害が多いことが分かり、基準を変えてきました。現在の建築基準法は、昭和 56 年に大改正されたものです。その後、都市型の直下型の阪神大震災が起き、大変多くの建物が被害を受けました。いろいろとサンプルが採れたので建物の被害を分析してみると、昭和 56 年以前の建物に被害が多く、その後に建てたものには被害が少ないということが分かり、

今の基準のままで行こうということになっていたようです。他の学校もそうですが、その時の建築基準法に合わせて建築はされていますので、そういった面では少し安心してもらっていいかなと思います。また、今の算定式で、積雪に対する算定において、当時と現在では積雪の見方が若干変わっています。近年、雪があまり降らなくなりましたが、現在、本市で建てる場合には1.5mの積雪をみて計算をしなければなりません。この耐震診断の計算も雪が1.5m積もった状態のことも考慮した計算となっていますのでIs値は低めの数値なるという現象が起きています。少しだけ説明をさせていただきました。

(出席者)

実質的には43年建っています。昭和46年の法改正で、まず一つ前の段階で変わっています。それ以前の建物なら、さらに危険であるということです。昭和46年に変わり、昭和56年でさらに変わったということです。その当時のコンクリート強度の設定値と、現在設定値がかなり違うのではないかと思います。そんな中で、危険要素が増えているのではないかと思います。

(出席者)

よく分からないのですが、この学校に通っている子どもたちは安全なのですか。この数値がどうか分からないのですが、明日から学校に来させて、勉強させて安心なのですか。教育委員会の方としてはどうお考えですか。

(教育長)

安心かと言われると本当に答えにするには困りますが、数値が出ております。

(出席者)

その数値が、よく分かりません。子どもたちをここに通わせて安心して、教育を受けさせる施設かどうかを聞きたいのです。数値的なことはよく分かりません。

(教育長)

ごく一部に、Is値0.2があります。学校の中で丈夫なところもありますが、一番数値の低いところの数値が挙げてあると聞いております。阪神大震災の揺れにもしっかりと持ったと言えますけれども、今、大きな地震がきたら佐濃小学校だけではなく、他の小学校でも大丈夫かと言えるかどうかはそんなことにはなかなか言えない、そういった意味でできるだけ早く計画を立てたということでもあります。

(出席者)

できるだけ早くて、平成23年ですか。

(教育長)

地震対策の計画が、国の方からありましてから15年目に入っております。京丹後市に、合併するまでに旧町で実施しているところもいくつかありましたが、お金がかかるということで先延ばししてきた事情があります。先ほど言いましたが、巨額のお金がかかるので順次、耐震診断を平成18年から、耐震結果の悪いところから順次計画を立てて行っているということでもあります。先ほどからお話しましたように、できるだけ早くということ去年から進めてきたということでもあります。

(出席者)

金のかかること。金がないからという意味だと思いますが、子どもの命がかかっている

ような、数値見てもよく分かりませんが、この学校に通わせておられる親御さんたちから見たら、不能だなんていうようなところに子どもたちを送っておられる親御さんにしたら、これは不安でしかたがないと思いますけど、その辺どう思われますか。

(教育長)

不能というのは、再起不能というような意味ではないと聞いております。

(出席者)

一刻も早くプレハブの所を作って、こっちの方が安全であるから「こっちで勉強しなさい」と言うような話になるのと違いますか。

(教育長)

本当ならすべき話であったかも知れませんが、再配置を進めているということもあってなかなか・・・

(出席者)

再配置の話と、子どものいのちの話とは、違う話ではないですか。

(教育長)

佐濃小学校につきましては、Is 値が 0.3 未満と診断された学校施設でありますので、早急に対応するという計画を立てていることを理解していただくと有り難いです。

(出席者)

再配置については、ここ 2、3 年の話でしょう。「国が補強しろ」と言っているのは 15 年前からでしょう。今まで何もせずに、本当だったらとっくに建替していなければならぬはずです。15 年前だったら補強が無理だということは分かっていたはずです。15 年前から国がしろと言っていることを、今の 2、3 年再配置のことに絡んできてというのは、怠慢とは違いますか。

(教育長)

15 年前というのは旧町の時代でしたが、京丹後だけでなく全国的に同じような状況でありましたが、なかなか進まず次の計画を立てたということでもあります。

(出席者)

京都府ですか。

(教育長)

京都府ではなく全体です。

(出席者)

よその都道府県は合格しているのですか。

(教育長)

京都府の中では、京丹後は少し遅れています。先ほど言いましたように、補助制度が良くなかったので、しっかりとした計画ができてからに実施しないと無駄なところに金を使うことになることから取り組みが少し遅れたということになります。今になったら、補助率は、耐震診断によって率は良くなってきていると思います。国の方も、全国的に進まなかったでそういう補助の制度を良くして、その耐震結果も公表しなさいという制度に変わって行ったということでもあります。

(出席者)

今、話を聞かせてもらって、佐濃小学校へ子どもを通わせている親としては、本当にすごく不安で一杯であります。3つの政策を言われましたが、いつ頃どのようにして決定されるのですか。

(教育長)

学校の設置は市の方の仕事になりますので、市長部局とも調整しながら学校の再編の計画を立てていきます。そして、その結果に沿いながらどういうふうに耐震等を進めていくかということを考えていくことになります。先ほど説明しましたが、例えば、佐濃小学校が残る、しかし再編の計画までに非常に時間がかかるという場合はプレハブ等を作るかまた、避難先を考えるというような方法をとるとした案しかできておりません。

(出席者)

これから佐濃小学校がどうなるのか、親の意見をしっかり聞いていただけるのですか。

(教育長)

今までもらった意見を踏まえながら、約1ヶ月ぐらいで進めていくことにしています。

(出席者)

保育所が統合した時も、そちらで決定されたことを報告してもらった形の記憶がすごくあります。そちらで、「こうになりましたのでお願いします。」とか、「こうします。」ということだけの報告だけということは絶対にしないでください。こちらの意見も聞いていただけるような場を設けていただきたいと思います。

(教育長)

次には計画を立てて、できるだけ最終案に近い形でお示しすることになると思います。

(出席者)

小さくてもいいから、佐濃小学校を残して建替えるという可能性もあるのですか。もうないのでですか。海部小学校と統合ですか。

(教育長)

可能性がないとは言えませんが、海部小学校に行くならば、教室の建て増しをしなければなりません。また、グラウンドが狭かったら土地を求めることができるかどうかも確かめなければならないということがあります。そういう、シュミレーションを描いておりますし、まだ、海部小学校に行くというようなことが決まったわけではありません。今回の説明も、検討結果ではどうなるか分からないというようなことで、この説明が、今の時期になったということでもあります。耐震結果では、「こういうふうになるのです」ということは、去年の説明でお話していますが、そして、後のことは耐震結果を報告してからということにしていたので、この前、示した案がそのとおり100%ということではありません。

(出席者)

この耐震補強不能というのは、去年から聞いていると思います。この学校は、この先使えませんよという話は去年から分かっています。他の学校は知りませんが、もう分かっていたことです。そこから話を煮詰めてもらってどうになりましたとか、話をしてもらっても先にいってないということでしょう

(教育長)

それは他の学校の耐震の関係もあるので、総合的に判断していくことにしております。

(出席者)

予算的なことですか。

(教育長)

佐濃小学校だけに視点を当ててしていないもので、そういうようなことになります。

(出席者)

今、感じているのは佐濃区民として、この学校を残していきたいなと誰も思っていることです。佐濃小学校というのは昭和 30 年代の『合併委員会』によって、佐濃南小学校と佐濃北小学校が合併しました。海部小学校と川上小学校が合併、神野小学校と湊小学校と田村小学校が合併と、久美浜小学校 1 校という案が出ましたが、結果的には佐濃小学校だけが合併しているのです。このような歴史的な経過がある中で、佐濃小学校がまたどこかに合併するという事は佐濃区民としては非常に困ります。地域的に、完全に隔離されてしまいます。まして、地域の活性化が言われる中で、スポーツ大会を見てもかなりの人数 450 人が参加しております、区民全体で 1,800 人ほどですが、4 人に 1 人は参加するような教育的条件が戸となっている学校なのです。それをしっかり教育委員会、市の部局でもきちっと受け止めてほしいと思います。このような佐濃の歴史的な経過を踏まえて、「金が少し足りない」とではなく、「教育環境をこれから守っていくのだ」という方針に変化してほしいと思います。言われている仮校舎をグラウンドに建てて、すぐ改築に入るということであれば区民も納得かもしれませんが、どこかへいくための仮校舎建築は疑問に感じます。それと、シュミレーションで考えられていることを、議会の中でも言われていたと思いますが、統合の中で高龍中学校を小学校に変更するというような案も出ております。このシュミレーションの案で行きますと、一時的な代替施設を準備してそこへいくということになり、佐濃小学校は耐震化のできている海部小学校になってしまうことになります。小学生は 1 年や 2 年の授業を受けて、次に高龍中学校にいくとなると、そこでまた移動しなければならない。今の 1 年生 2 年生は、6 年間の内に 2 回移動しなければならないシュミレーションになります。0.3 未満の耐震補強ができない場合についての、佐濃小学校は避けてもらわないと、教育上も非常に悪いと思われまますし、このことをきちっと受け止めてほしいと思います。そういう点から、この現校を改築してもらって、ここを残していただくのが一番の最良の案と思っております。

(教育長)

いろいろとシュミレーションしているのですが、一人の子どもが卒業するまでに 2 回も学校が変わるといようなことは絶対によくないということ、頭に置きながら計画を立てていくということは私たちも認識しております。

(出席者)

そういうふうにご考慮されるなら、海部小学校が、今のグラウンドが 1,000 m²ですが、拡張しようにも用地買収が無理です。そのような実情がある中で、シュミレーションとか言うよりも現実の問題として、やはりここを残していただきたいというのが佐濃区民の考え方だと思います。

(教育長)

佐濃小学校のグラウンドは、町内 5、6 年生が集まってきても十分できるぐらいの広さがあり、本当に使えたらいいなと思っております。

(出席者)

佐濃小学校の耐震結果を見せてもらって、二次診断がされたのは平成 18 年度と書いてありますが、今は、平成 22 年で 4 年間どういうふうな手立てでされていたのか、聞かせていただきたい。平成 18 年度に診断されておりながら、今こういう結果になったということは、何もせず 4 年間放置されていたというように思います。大きな地震がなかったからいいようなものの、一番か二番ぐらいの最悪のランクになっている中で、すぐにでもプレハブか建てるかして、地震がいつ起きるか分からないような中において、教育としては学校の良し悪しや効率化の問題で教育を論じるものではないと私は思っております。佐濃小学校がなくなったら、佐濃地域は荒れる一方になると思います。海部小学校は校舎が小さく、グラウンドも狭く、駐車場もなく、道路は狭いなどいいところがないではないですか。ただ今のあれが余っているからからそこにいくということは、佐濃地域としてはとても許せるような話ではないと思います。佐濃小学校がなくなったら、公共の施設は全くなりません。エリア的にも人口的にも海部地域に比べて佐濃地域の方が大きなウエイトを占めている中で、なぜ川上小学校、海部小学校、佐濃小学校のトライアングルの中で考えていかなければならないのかと思われまます。学校の良し悪しや効率化で教育を論じるべきではないと思います。欧米の基準では、小学校の規模、生徒数でも児童数でも 100 人ぐらいの規模が欧米なんかでは多いわけですし、確かに児童数が少ないのはいろんな弊害もありますが、むしろ質の濃い教育もできるわけでありまます。なんとか佐濃小学校は残る方向で、いつ地震が起きるか分からないことを放置しておくような考え方ではなく、早く手立てを一番か二番ぐらいにしななければならないところだと思いますが、それについてお聞かせいただけませんか。

(教育長)

なぜ、ここまで放って置いたかということではありますが、平成 19 年の 3 月議会において、学校再配置に取り組むという表明が市長からありました。平成 18 年度に一斉に診断し、平成 19 年度に結果が出てきましたが、再配置の関係もあって、絵が描けてからということで、財政上の問題も念頭に置きつつ、少し再配置の計画が先行し、耐震結果によって拠点校となるところからというような考えが当初はあったと記憶しております。

(出席者)

海部地区は、高龍中学校、久美浜高等学校があり、色々な施設が充実しているのに、佐濃小学校がなくなったら佐濃地区は公共施設が全く無くなってしまおうということになります。

(教育長)

他の地区でも同じように、大きなところから小さな学校にいくという絵を描く状況は、計画当時はあったということでありまます。今回、耐震結果も見ながら、仮に、A 校を B 校に移動するとしたら、B 校に土地の確保もできるのか、また教室も増築ができるのかということも計算して絵を描くようにしております。

(教育次長)

補足ですが、従来の国の指導が 0.3 未満のものについては、原則、平成 23 年度中に整備を行うような指導でありました。それが先ほどから教育長が話をしていますように中国での地震があった関係もあって、「早急に下さい」ということが出てくるようになり、今回、早急に整備計画を立てて進めるという必要性も感じまして、このたび耐震化方針をこういう形で示させてもらって、できるだけ早い対応ができるようにしたいという思いを市の方は持っているということでもあります。再配置の方につきましては、教育長が申しましたように、なかなか最終的なことまでお話しはできませんが、市の方ではできましたら来月に改めて各地域に再配置の計画をもって歩きたいと思っています。その前段階として、耐震化を特化するような形になって申し訳ありませんでしたが、説明会にさせていただいたということで、また来月改めて各地域を歩かせていただきたいと思いますと思っています。

(出席者)

学校というのは、鉄筋コンクリートでないといけないものですか。

(補佐)

最近国の方が、低層の建物、1 階または 2 階だと思いますが、木材の需要のために公共施設は木造で建てていこうというような方針の話はあります。

(出席者)

鉄筋コンクリートは高いから鉄骨ですとか、木造ですとか、ログハウスの学校なんかもありますよね。

(補佐)

広いスパンでも集成材を使うなど技術的なものもだいぶ進歩してきました。

(出席者)

鉄筋コンクリートよりも安く校舎ができるのですか。

(補佐)

いや木材だから安いとは限りません。建築基準法で耐火の関係等をクリアしていれば、木造でも鉄骨でも鉄筋コンクリートでも建築ができます。

(出席者)

今と同じ校舎を建ててくれとは言っていないので・・・

(補佐)

技術的にはできると思います。コスト的には、どれがどうかは検討する必要があります。

(出席者)

コスト的に今と同じ大きさのものを建ててくれという分けではありません。どうせ壊さなければならない建物ですから。

(補佐)

どのような方針を出してくるか分かりませんが、公共施設の低層の建物は木造で行きなさいみたいなことを考えているというようなことをニュースでちらっと聞きました。

(出席者)

佐濃小学校は低層でも構わないので、こういう考え方もしてもらえますか。プレハブ建てるのはもったいないので、1 年か 2 年、壊して建替えている間は「海部小学校に行かせてもらおう」とか、「ここを増築してもらおう」とか。地域としての声を一生懸命あげたら、こ

ういう方向もあり得ますか。

(教育長)

今の時点で、はっきりあり得るとか、あり得ないとかは言えません。

(出席者)

どう言おうと統合してしまうという、腹があるようですね。

(教育長)

先ほど言いましたように、海部小学校に行くなら土地の関係とか、さらに広い校舎に建て増しができるか、土地の買収ができるのかという課題も考えられますので、それも決定ということでもないと思っていただきたい。

(出席者)

来月、説明会があると言っておられたのは、決定事項を説明されるのですか。

(教育長)

学校の組み合わせも含めて説明をさせていただくと思います。

(出席者)

ということは、もう決まっていると判断できる、今話していることは全然取り上げられないということになるのですか。

(教育長)

経費面ではどうなるだろうかなど、いろんなシュミレーションで検討しているところがあります。

(出席者)

今のこの意見を取り上げるには資料としては膨大すぎて、資料的にはなかなか回らないし、来月にそれを発表されるということはほとんどそれがもう出来上がっている形の上での説明で、耐震だけの説明をされているように思います。

(教育長)

そうです。耐震だけの説明です。そして再配置の件については、ご意見を聞かせてもらうということでもあります。

(出席者)

再配置の件は来月の発表になるということですが、今まで何年、蓄積されたその意見をまとめて決められている分けであるので、今日の意見を佐濃小学校にはあまり取り入れる時間はないのではないかなと思います。

(教育長)

今日の意見は記録にとりますし、市長部局にも共有しながら検討の材料に使わせていただきます。

(出席者)

耐震と統廃合の話がありましたが、統合する場合、何十年ずっとやってきたわけですから、又、ここにしますという構想なのかどうか。

(教育長)

今の1歳児が小学校に入る頃は、現在の小学生より100人ほど減って500人が400人余りになってしまいます。その5年先が見えませんが、そのように急カーブで下がってきて

いるということであります。久美浜町全体で、第一案では3校案を示していましたが、1校平均で生徒数が100人程度になる可能性が、何年か先には出てきます。そのようなことになってくれば、「本当に子どもたちが学習しやすい条件はどうか」ということを、その時点で考えなければならない時がやがて来ると思います。とりあえずというのは、聞こえは悪いですが、そのような時期もやがては出てくるということを感じていなければならないということであります。

(出席者)

去年、説明があったときに、3km未満は通学路が「どの」、「こうの」の話があったが、あれは何か基準があるのですか。

(教育長)

文科省の方で通学補助を出すには小学校の場合4kmという線があります。従来は4kmとしておりましたが、特に、京丹後市は4kmというと、山の中を通ったり、海の風の強いところを通ったり、人通りが少ないところを通ったり、いろいろな条件があるということでそれを3kmに縮めようということで、3kmという案を出させていただいております。地域の状況を見ながら判断をしていきますけれども、一応目安としては3kmということで国の基準より1km減らしているということであります。

(出席者)

その基準というのも分かりますが、子どもたちを守っていかなければならないので、お金がないというのは分かっていますが、子どもたちのためによりしくお願いします。去年からの説明会からでも、どう考えておられるのかすごく不信感があります。そのような案が、再度どうこうの言われるのか。その辺はどう思っておられるのですか。

(教育長)

国から何校に減らせとかは言われている分にはありませんが、非常にお金がかかるということの中から、財政面を考えながら進めていることが、ご心配をかけた結果になっているということであります。この状況の中で、できるだけご心配をかけずに急ぐという方法が、先ほど示した案で捉えていただければ有り難いと思っております。

(出席者)

3つの候補案があるわけですが、佐濃だけが合併しているのです。そのようなことに対する考慮が足りないと思うのですが、財政的に2分の1の補助があるということと、特例債と過疎債があるということですね。出した分、ほとんどあとから返ってくるような状態ですから、資金的に財政的に苦しいというところまで言えないのではないのでしょうか。その辺を、考えてもらい考慮してください。

(教育長)

財政面については、いろんなシュミレーションの中で、補助があるのか、特例債が使えるかどうか検討しております。

(閉会 21時30分)